

生いたち 修学時代 -II



辞達学会の弁論 演題幕に米田の名前が見える（1925年）
〔中央大学資料館事務室所蔵〕

満 20 歳での徴兵検査で右目視力が弱く丙種合格（現役に適さない）となった米田は、学問を修めるために上京します。

東京での米田は、まず現在の新宿区四谷あたりの新聞販売店に住み込み、朝は新聞配達、昼は神田の正則英語学校と中学四年に編入するための予備校、夜は週三日の漢文塾へと通い、勉強を重ねました。その結果 1919（大正 8）年、攻玉社中学（現在の JR 浜松町駅近く。旧制中学のため五年制）の四年に合格。喜んだ米田は一層勉学に力を注ぎました。そして引き続き学費を自分で稼ぎ、1923（大正 12）年には中央大学専門部法学科への進学をはたしたのです。ここで米田は「辞達学会」という弁論部に入って積極的に活動し、また、憲法学等の研究に励みました。